

satokai-farm おれぜんつ☆=

ジ〜ン (zine) な店 (shop)

プロフィール〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



boy,boy,boy,?

1996年生まれ。「boy,boy,boy,?」とかいて“ぼぼぼ”とよみます。ぎゅっとできるものをつくりま
す。いろいろな媒体を通して、コミュニケーションの図り方を試したりしています。

https://www.instagram.com/bobobo_dayo

ジ〜〜ン〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ン

- ・「hug,hug,hug,!」
- ・「ぼぼぼってなあに。」

インタビュー〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

—「hug,hug,hug,!」ってどんなZINE?

「hughughug!」は、今年（2022年）の1月に作った「おももり」のZINE。私は、ぬいぐるみでも服でもキーホルダーでも自分で作ってるものは全部、架空の物語の一部として作っている感覚があつて。だからZINEでは、その背景が見えるようなものにしたいなと思った。今回の「おももり」は、精神的にかなり追い詰められてた会社員時代にそばにあつて欲しかったもので、主人公（ぼぼぼリーマン）はあの時の自分。就職で実家から離れて孤独だった新卒1年目の自分にとっての、理想のモーニングルーティーンを表したものだと思う。

その当時は、友達からもらった腕時計とかキーリングとかがその「おまもり」の役割を果たしてた。その友達の「身代わり」みたいに感じて、毎朝腕時計をつけることやキーリングをつけた鍵で扉を開けたり閉めたりすることにいちいち救われてる感覚がとても強かった。「大きい何か」ではなく、生活に馴染んだものが、自分を繋ぎ止めていたんだと思う。それはきっと役に立つものじゃなくてもいい。逆に役に立たないものこそ、心がピンチの時のよっかかりどころとなって癒されていた。だから私もそれを作っていきたい。今回のZINEは、そういうものをある意味で上手に使いこなして、楽しく生きている人を描きたかったのかも。

—「ぼぼぼってなあに。」ってどんなZINE？

「boy,boy,boy,?」の誕生を描いた絵本。最近「『boy,boy,boy,?』ってなに？」と聞かれることが多くなってきて、そう言われた時に「はい！」と手渡せるものを作りたいなと思ったのがきっかけ。「boy,boy,boy,?」は自分にとって「作らなきゃいけないもの」であることは確かだけど、正直自分でもなんだかよくわかっていない。だからこの本を読んでも別に何かがわかるわけじゃない（笑）そもそも「『boyboyboy』とは何か」という問いに答えが必要なのかなとも思えてきてしまっている、、。でも、だからこそ、こういうよくわからないものでアンサーすることに意味がある気がする。

—「boy,boy,boy,?」は、自分にとってどんな存在？

活動を知ってもらえる機会が増えて、初めて出会った人から「boy,boy,boy,?さん」と呼ばれることとかも増えてきたんだけど、なんかしっくりきてなくて。じぶんと「boy,boy,boy,?」はどこか別のもののように思えてしまうことが多い気がする。確かに私が作ってるんだけど、「自分が作っている」というよりは「『boy,boy,boy,?』に作らされている」という方が近いかも。これは最近じわじわ湧き出てきてる感覚。じぶん自身から生まれるものでありつつ、時々「boy,boy,boy,?」が先行している？ように感じる時もある。

私はいろんな人とコミュニケーションをとってみたいという気持ちと裏腹に、自分のすごく気分屋で、うまく立ち回ることが苦手すぎる性格ゆえになかなか難しいことがすごく多い、、。でも、自分という人間と他人との間に一つクッションになるようなものがあれば、じぶん本体が難しく感じるコミュニケーションもとることができるんじゃないか、と考えたりして。落ち込んでいる友達がいた時、自分が直接会いに行ったり声をかけたりするとかえって重荷になってしまうかもしれないから、代わりにそばにいてあげられるようなものがあればいいかなって。仮にじぶん本体とあまり相性が良くなかったとしても、「boy,boy,boy,?」には親近感が湧くかも、みたいなことが起こったらそれはとてもうれしいことのような気がする。じぶんが誰とでも平穏な気持ちでコミュニケーションをとることが難しいからこそ、「boy,boy,boy,?」というクッションがじぶんにとってとても必要な存在に感じる。

